

あかかみい壁新聞

発行◇スポーツ
アカデミー石巻
石巻市新館1-2-3
TEL 0225-24-9815
FAX 0225-24-9816

アカデミー再建を喜ぶ亀山市長

3・11東日本大震災で被災したスポーツアカデミー石巻(石巻市新館)が5月8日に営業再開することを決定し、スポーツアカデミー(本社・東京)の中野成章社長らが2月9日に亀山紘市長を訪ねて報告した。亀山市長は「各スポーツ施設が壊滅的な被害を受けている中、再開は非常にありがたい。市民の健康増進や心の問題解決など復興に向けての大事な施設になる」と歓迎の言葉を述べた。

スポーツアカデミーは全国に30営業所があるが、先の大震災では気仙沼、石巻、一関、佐沼、相馬、土浦の6営業所が営業中止あるいは一時休業に追い込まれた。被災当日から「石巻は必ず

3月11日金曜日14時46分ごろ、今までに経験したことのない地震を感じました。私は外部営業中で、プールから約10分のところで信号待ちをしている車の中でした。ラジオの音声と携帯の緊急地震速報が鳴り、その後、大きな揺れが発生しました。

車は大きく上下左右に揺れ、サイドブレーキを引き、しばらく停車して安全を確認しました。揺れは激しく長く5分以上揺れていたと思います。信号が停止したので、私はUターンして営業所に戻りました。途中、道路の陥没もあり、迂回しながらプールに到着しました。

プールについては15時前後だったと思います。プールの東西の外壁は倒壊しており、会員、スタッフの安否が心によぎり、最悪のケースも想定してしまいました。スタッフは屋外に



すでに避難しており、会員も全員けがなく無事とのこと。地震発生時の状況をスタッフから聞きながら今後の行動を模索していました。スタッフの報告によると、発生時

再開する！」と強い決意で取り組んでいたが、経営的打撃は余りにも大きかった。しかし、「石巻再建」に全面協力を申し出てくれたのが東京都競馬とグループ会社の東京サマーランドだ。

アカデミー石巻、再開までの道のり

施設が壊滅的被害を受けた3・11から21日後の4月1日、スタッフがようやく片づけをするために集まった。プール内は泥水で埋まり、機械室は塩水に浸かり壊滅状態。

「自分たちが今できること」として「避難所生活の人達の健康が心配」とエコノミー症候群対

プールには会員2名がフリー遊泳中でした。大きな横ゆれのため、プールの水が1mほどの波になり、飛び込んで会員をすくい上げました。同時に東西の壁面が外側に倒壊していたので、安全な経路を探して更衣室に誘導しました。

プールは外壁の倒壊により外気が一気に入り込み、水蒸気とガスが発生し、視界が悪く、室温も一気に下がりました。不幸中の幸いだったのは、時間が婦人のレッスンと子供のレッスンの狭間で館内に利用者が少なかったため、避難誘導がスムーズに進んだことです。これが学童コースの利用者が多い時間に発生した場合、

《あの日を振り返る》

茫然自失の中で見た自然の恐怖

スポーツアカデミー石巻所長 小川 哲

すっかり誘導出来たか、正直解りません。その後、スタッフ会議を屋外で行い、自宅等が心配なのでメインのスタッフを残して一度解散しました。あたりは停電のため、情報収集が出来ない状況です。ナビテレビのついていない車をもってきて情報収集を始めました。

営業所の距離は海から約2km。近隣の住民もここまで津波は来ないと話をしていました。防災無線の放送は津波警報で、避難は海岸に近い地域に出されていたようです。15時30分ぐらいでしょうか、車のテレビ情報も混乱しながら、

1億5千万円の修復費用を肩代わりし、石巻市の復興の一助にとスポーツアカデミー石巻再建に協力してくれた。スポーツアカデミー石巻が目指す地域の「心と健康のスポーツコミュニティ」は、5月8日再開予定で工事が進んでいる。

策の運動指導にスタッフがボランティアとして出かけた。避難所・医療関係施設での灯油不足が深刻になれば、営業所地下タンクに残っていた灯油を石巻市に提供したいと申し出を行なった。

5月1日、佐沼営業所が営業再開。石巻営業所からスクールバスを走らせ、石巻の会員・選手が佐沼営業所で泳げるようになる。「再び同じ場所で営業が出来るか？」を心配していたが、6月に発表された「石巻市災害復

大津波警報が発令されていることを伝えていました。防災無線も大津波警報の発令と避難の放送が始まりました。それから1〜2分でプールに津波が押し寄せました。その時現場にいたスタッフは5名。3名は国道側の歩道橋へ、私ともう1名は近くの民家に車を捨てて走って避難しました。道路は車の渋滞で、動かない状況になっています。国道方面に逃げたスタッフは、車中の人に津波の来襲を懸命に知らせながら、約300m先の歩道橋まで避難しました。国道の手前には北上川につながる石巻運河があります。その一部が



興都市計画」では事業可能地域となり、「再開」に向けての具体的な行動がスタート。7月9〜10日には会員の協力もあり、プール内の泥出し作業を行った。被災前に在籍していた会員へのアンケート調査を行ったところ、連絡の取れない会員もいたが、約6割が「再開したら、また泳ぎたい！」という結果が得られた。大勢の会員が「再開を待ち望んでいる！」ことが分かった。「再開計画」が進められた。

た。停電で情報収集が出来る状態ではありませんが、水が引く様子がないので、携帯電話のバッテリー残量に注意しながら、本部(東京)に安否連絡を続けました。奇蹟的に一度だけ電話がつながり、スタッフの安否と、現場の状況を伝えることが出来ました。

民家の周りを見渡すと、庭先の柿の木に一人、隣の屋根の上に一人、逃げ遅れた人がいました。雪はまだ降り続けています。日も落ち、気温も下がりが、あたりは真っ暗闇です。2階では避難した人が毛布、布団で暖を取りながら、身を寄せています。外にいる2人を励ましながら、付近の状況を確認していました。

23時ごろでしょうか、10mくらい先の柿の木につかまっている人が救助を求めています。水深は約1.8m。寒さでこらえきれず、ここまで泳いでくるとのこと。暗闇の中、大声で誘導しながら1階まで誘導。2階にあった物干しざおで1階から2階まで救助。着替えと毛布で暖を取りながら、マッサージを行い、一命を取り留めました。あと一人、屋根に残っています。午前2時ごろ、やはりこらえきれず、同様に救助。水はまだまだ引いていません。余震と寒さと暗闇におびえながら、皆で励ましながら、一夜を明かしました。

夜が明け、あたりを見渡すと、一面が水没しています。付近の2階にも避難している人が孤立したまま夜を明かしていました。このまま救助を待つか、自力で脱出するか。救助を待つにしても、時間がかりそうに思いました。この人の早急救助のためにも、自力で脱出して、な

んとかこの状況を打破したかったです。水深はまだ1.5mぐらいです。身体を濡らさないように、塀を歩いて、屋根づたいに運河の土手まで脱出することが出来ました。土手にいた人に民家の状況を説明して、自宅のアパートまで歩きました。

アパートは幸い2階だったので、津波の被害はなく、とりあえず携帯の充電器、あるだけの食料・飲料をリュックに詰め込んで、プールの近くの避難所に戻りました。この時点で翌12日の14時ごろだったと思います。既に地震から約24時間過ぎていました。

避難所では、別に避難したスタッフと再会し、情報の収集です。携帯はまだ繋がらず、停電も続いています。夕方16時ごろ、民家の家族も無事救助されました。水は少しずつひいては来ましたが、プールの周りは水没して近づけません。他のスタッフの安否も確認出来ない状況です。まずは落ち着いて、今後の対応を考えました。長期戦になることをふまえ、約2日間不眠だったことから休養をしっかりと取って明日からの作業に備えようと自宅に戻り、休みました。

この震災を今振り返ると、恐怖はもろろんあったのですが、信じられないことが次々と目の前で起こり、茫然自失になりながらも意外に冷静に、たくましく対応出来たのかなと思えます。人はつくづくたくましいものだと感じます。「がんばろう石巻」―私達も「水には負けない!」を合言葉に、またプールで仕事を始めます。

水には負けない!



スポーツアカデミー石巻が
再開します!!

入会申込み受付 3月10日(土)スタート!

オープニングイベント ▶ 4月29日(日)~5月7日(月)

スクール開始 ▶ 5月8日(火)



心と健康のスポーツコミュニティー

スポーツアカデミー石巻

石巻市新館1-2-3

TEL 0225-24-9815 FAX 0225-24-9816